

「地震調査研究の推進について―地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策―」の評価について（概要）

平成 18 年 7 月 18 日

地震調査研究推進本部政策委員会によって、「地震調査研究の推進について―地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策―」（平成 11 年 4 月 23 日地震調査研究推進本部。以下「総合基本施策」という。）に基づく取組の評価を行うため、政策委員会の下に、平成 16 年 8 月 26 日、総合的かつ基本的な施策の評価に関する小委員会を設置。

本評価結果については、平成 18 年 7 月 18 日付けで取りまとめ、公表。

1. 評価の考え方

総合基本施策に掲げられた個々の施策の進捗状況とその成果の評価を行うことで、今後の総合基本施策の推進に役立てるとともに、次期総合基本施策の策定にも生かすことを目指している。

2. 評価の項目、内容

(1) 小目標の達成度

総合基本施策に示された個々の施策について、その目標（小目標）が達成されているかを評価

- 小目標がほぼ達成されている A
- 小目標がある程度達成されている B
- 小目標がほとんど達成されていない C

(2) 中目標の達成度

総合基本施策で示された個々の施策の推進により、目指していた上位の目標（中目標）が達成されているかを評価

- 中目標がほぼ達成されている a
- 中目標がある程度達成されている b
- 中目標がほとんど達成されていない c

(3) 個々の施策の今後の展開

(1)、(2)の評価を受けて、個々の施策を今後どのように展開することが適切と考えるかを評価

- 中目標の達成（又は達成された状況の維持）のために、
当該施策への取組の強化を図るべき ア
- 当該施策への取組を着実に進めるべき イ
- 当該施策については、その取組の方向性や考え方等について何らかの見直しをすべき ウ

(4) 評価に付記すべき内容

3段階（区分）による評価だけでは表せないもの、次期総合基本施策を策定する上で考慮すべき事項等の評価に付記すべき内容として記載

3. 評価結果の概要及び特に留意すべきと思われる点等

(1) 多くの施策については、着実な進捗

まず、総合基本施策の多くの施策について着実な進捗がみられる。その中でも稠密な調査観測網が整備され、そのデータが広く流通、公開されたことは大きな成果と位置付けることができる。さらに「全国を概観した地震動予測地図の作成」が平成17年3月になされたことを高く評価したい。

二番目に「リアルタイムによる地震情報の伝達の推進」について、観測されたデータが地震発生後、即時的に流通し、地震活動の評価に用いられることで、有用な情報発信がなされている。また、「緊急地震速報」として気象庁により平成18年度中の本格運用が目指されている。

一方、取組が遅れているものとして、海域での調査観測網の整備を指摘しておきたい。

(2) 現在の調査観測の継続が今後大きな課題に

現在の基盤的調査観測網をいかに維持・更新していくかが、きわめて重要となる。独立行政法人、国立大学法人が担っている部分がきわめて大きく、当該観測網の重要性を主張し続けることが求められる。

(3) 地震調査研究の成果の発信におお検討すべき点

地震調査研究の成果を地震による被害軽減に結びつける過程の下で、だれが関係し、その人に対しては、どれだけのことを知ってもらい、意識や行動として何を求めるかを、より明確にする必要がある。

(4) 「橋渡しの役割」を果たす人材、体制を

橋渡しの役割を担う人材あるいは体制の活動を支援するために、目的や対象によって使い分けができるよう、地震調査研究側から発信する情報の内容を充実すること等について検討する必要がある。

4. 次期総合基本施策の策定に向けて

(1) 全体の枠組みについて

次期総合基本施策においては、具体的な内容を提示することに加え、より緊急度を持って実施すべき施策は何かを明確にすることが求められる。

また、とりまく状況が大きく変化する中で、より短い時間幅で部分的に見直す考えを取り入れるとともに、将来の大規模地震発生を見据えた、長期的な視点を加えるなど、時間軸設定の枠組みを再検討する必要がある。

(2) 配慮すべき視点について

次期総合基本施策策定に際し、配慮すべき視点については、以下のとおりである。

- ・現在の総合基本施策では、地震調査研究の担い手として、主として国、独立行政法人、国立大学法人が想定されているが、私立大学や、公益法人、企業の有する研究機関等も、重要な役割を果たしている場合が少なくなく、今後、明確にしていく必要がある。
- ・津波の予測精度の向上は、事前及び実際に地震・津波が発生した際に重要であり、津波に関して、何が課題であり、また、被害の軽減に向け、どのように調査研究を進めていくかを明らかにすることが求められる。

総合的かつ基本的な施策の評価に関する小委員会

< 総合基本施策「第2章 地震調査研究の推進方策」に掲げられている施策の達成度等に関する評価 >

	1 地震調査研究の推進とその基盤整備																						
	(1) 地震に関する基盤的調査観測の推進(p16)					(2) 地震に関する調査観測研究データの蓄積・流通の推進(p18)			(3) 基礎的、基盤的研究の振興(p19)			(4) 地震調査研究推進における国の関係行政機関、調査観測研究機関、大学等の役割分担及び連携(p20)			(5) 地震防災対策側からの要請の地震調査研究推進への反映(p21)								
小目標の達成度	AAAAA					A	BBBB				AAA	BBB				A	BBBBB				BBBB	CC	
中目標の達成度	aa	bbb				a	bbbb				aaa	bbb					bbbbb				bbbb	cc	
今後の展開	アアア	イイ				アアア	イイ				アアアアア	イ				アア	イイイイ				アアアア	イ	ウ

凡例

初期配点	3	2	1
平均点	3.0~2.6	2.5~1.5	1.4~1.0
	2.5を超え		1.5未満
	A	B	C
	a	b	c
	ア	イ	ウ

小目標の達成度	3.0点	A	2.2点	B	2.5点	B	2.2点	B	1.7点	B
中目標の達成度	2.4点	b	2.2点	b	2.5点	b	2.0点	b	1.7点	b
今後の展開	2.6点	ア	2.6点	ア	2.8点	ア	2.3点	イ	2.5点	イ

	2 広範なレベルにおける連携・協力の推進															3 予算の確保、人材の育成等						4 地震調査研究の評価のあり方(p33)										
	(1) 地震防災工学研究の推進と地震調査研究との連携促進等(p23)					(2) 地震調査研究の成果の活用にあたって必要とされる国民の理解のための広報の実施(p24)			(3) 地震調査研究の成果の活用にあたっての国の役割と地方公共団体の役割への期待(p26)			(4) 推進本部と地震調査研究に関連する審議会等との連携(p27)			(5) 国際協力(p29)			(1) 予算の確保及び効率的な使用等(p30)			(2) 人材の育成及び確保(p31)											
小目標の達成度		BBBB	CC			AA	BBBB				A	BBB	CC			AA	BBB	C			A	BBBB	C			BBB	CCC	AA	BBBB			
中目標の達成度		bbbb	cc			a	bbb	cc			a	bbb	cc			a	bbb	ccc			a	bbbb	c			bbb	ccc	aa	bbb	c		
今後の展開	アアアアア	イ				アアア	イ	ウウ			アアア		ウウウ	アア	イ	ウウウ	アアアア		ウ			アアア	イイイ				アアア		ウウウ	アアアア	イ	ウ

小目標の達成度	1.7点	B	2.3点	B	1.8点	B	2.2点	B	2.0点	B	2.0点	B	1.5点	B	2.3点	B
中目標の達成度	1.7点	b	1.8点	b	1.8点	b	1.7点	b	1.8点	b	2.0点	b	1.5点	b	2.2点	b
今後の展開	2.8点	ア	2.2点	イ	2.0点	イ	1.8点	イ	2.6点	ア	2.5点	イ	2.0点	イ	2.5点	イ

総合的かつ基本的な施策の評価に関する小委員会

＜総合基本施策「第3章 当面推進すべき地震調査研究」に掲げられている施策の達成度等に関する評価＞

1 活断層調査、地震の発生可能性の長期評価、強震動予測等を統合した地震動予測地図の作成(p34)	(1) 陸域及び沿岸域の地震の特性の解明と情報の体系化						(2) 海溝型地震の特性の解明と情報の体系化								
	○主要な活断層の場所、活動度等に関する情報の明確化(p35)			○未発見の活断層の調査のための手法等について検討(p36)			○日本に被害を与える可能性のある海溝型地震の場所、活動度等に関する情報の明確化(p37)			○津波波高予測技術の高度化を図る調査研究を推進(p38)					
	小目標の達成度	AAAAA	B		AAAAA	B		A	BBB	CC	AAA	BBB		AA	BBB
中目標の達成度	aa	bbbb		aa	bbbb		aa	bbbb		aa	bbbb		aa	bbbb	
今後の展開	アア	イイイ		アア	イイイ		アアア	イイ		アアアア	イ		アアアアア	イ	

凡例

配点	3	2	1
平均点	3.0~2.6	2.5~1.5	1.4~1.0
	2.5を超え		1.5未満
	A	B	C
	a	b	c
	ア	イ	ウ

小目標の達成度	2.8点	A	2.8点	A	1.8点	B	2.5点	B	2.2点	B
中目標の達成度	2.3点	b	2.3点	b	2.3点	b	2.3点	b	2.3点	b
今後の展開	2.3点	イ	2.3点	イ	2.5点	イ	2.7点	ア	2.8点	ア

1 活断層調査、地震の発生可能性の長期評価、強震動予測等を統合した地震動予測地図の作成	2 リアルタイムによる地震情報の伝達の推進						3 大規模地震対策特別措置法に基づく地震防災対策強化地域及びその周辺における観測等の充実(p44)	4 地震予知のための観測研究の推進(p46)													
	(3) 地震発生可能性の長期確率評価(p39)		(4) 強震動予測手法の高度化(p40)		(5) 地下構造調査の推進(p41)				○基盤的調査観測等の高感度地震計等のデータをリアルタイムで収集するとともに、地震についての詳細な情報を即時に決定し、それらをリアルタイムで地震防災関係機関等に伝達する機能についてさらに高度化を推進するための検討(p42)	○遠隔地で発生する地震による主要動をその到達前にとらえ、重要施設等における緊急な対応を可能とするリアルタイム地震防災システムの研究開発(p43)											
	小目標の達成度	AAAAA	B		AAA	B			C	AAA	BB	C	AAAAA			AAA	B	C	AAAA	B	
中目標の達成度	aa	bbbb		aa	bb	c	aa	bbb	c	aaa	bb		aaa	bb		aaaa	b		aaaa	bb	
今後の展開	アア	イイ	ウ	アア	イイ		アアア	イイ	ウ	アアアア		ウ	アアアア		ウ	アアア	イ	ウ	アアア	イイ	

小目標の達成度	2.8点	A	2.4点	B	2.3点	B	3.0点	A	2.4点	B	2.8点	A	2.8点	A
中目標の達成度	2.3点	b	2.2点	b	2.2点	b	2.6点	a	2.6点	a	2.8点	a	2.7点	a
今後の展開	2.2点	イ	2.4点	イ	2.3点	イ	2.6点	ア	2.6点	ア	2.4点	イ	2.5点	イ